



再考：都市の緑の活用 子ども遊び場の視点から

平成26年度

日本造園学会北海道支部大会
シンポジウム

2014年10月4日(土)

15-17pm

北海道大学農学部

札幌市北区北9条西9丁目

詳しくは、

www.jila-hokkaido.com

ゲーム機やインターネットの普及や生活環境の変化が、子どもの遊びを変質させています。冬季の自宅への閉じこもりが運動不足や体力低下の原因と指摘され、外遊びの重要性が見直されています。

都市の遊び場である公園緑地は、量的に十分といえる状況でしょうか？子どもたちに魅力あるものと言えるでしょうか？研究や実務に携わる専門家を招き、子どもの遊び場という視点から都市の公園緑地の現状や課題、活用事例について参加者と意見交換をし、質の高い外遊び環境づくりを考えるきっかけにします。

パネリスト

木下 勇 氏 (千葉大学大学院)

世田谷区のプレーパークづくりや住民参加、子ども参画のまちづくりに関わる。ユニセフChild Friendly Cities国際諮問委員会委員

新谷 克教 氏 (札幌市役所)

造園職員として石山緑地・五天山公園等の造成、各区の公園・街路樹の維持管理にたずさわる

金由貴子氏 (札幌市公園緑化協会)

西岡公園管理事務所に勤務、市内のプレーパーク事業をサポート

コメンテーター

浅川昭一郎氏 (札幌市公園緑化協会)

コーディネーター

椎野亜紀夫氏 (北海道科学大学)